

第118回 品質管理シンポジウム (QCS)



【基調講演】

DMG 森精機(株) 代表取締役社長
森 雅彦氏



【講演1】
小谷 高代氏

(株)ユーシン精機 代表取締役社長



【講演2】
伊藤 みほ氏

(株)デンソー 執行幹部
先端技術研究所長



【講演3】
カルドネル 島井 佐枝氏

アイトプロデューサー
MUZ(株) 代表取締役



【講演4】
渡邊 弘子氏

富士電子工業(株) 代表取締役社長



【特別講演】
鎌田 浩毅氏

京都大学名誉教授



日程：2024

12/5Thu~12/7Sat

会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

WEB：<https://www.juse.jp/qcs/>



テーマ：変化に対応する品質経営
~ Just in Time + Just in Case ~

趣旨



森 雅彦 氏

DMG 森精機株式会社
代表取締役社長
森 雅彦
第 118 回
品質管理シンポジウム
主担当

「良品・廉価・短納期」という言葉があります。戦後、日本の製造業は米国から品質管理を学び、いかにバラツキなく、いかに安く、いかに早く、商品を製造し、供給するかを追求してきました。その結果、日本の製品は「メイドインジャパン」としてブランド化され、世界を席巻しました。しかし近年、製造業に限らず、我々企業を取り巻く環境が以下のよう大きく変化しています。

- ・顧客の需要が多様化し、少品種大量生産から多品種少量生産が求められるようになった。
- ・少子高齢化の影響で、労働人口が減少するとともに、数年の内には社会の中心はZ世代になる。
- ・地球温暖化を防ぐべく、脱炭素(カーボンニュートラル)が求められるようになった。
- ・持続可能な社会を実現するために、資源循環型社会(サーキュラーエコノミー)が求められるようになった。

これらの変化は数多ある変化のうちの一部に過ぎませんが、ある意味で予測可能な変化、確実に来る未来です。例えば、今後数年で、少子高齢化が解消され、労働人口が増えるという事はあり得ません。これらに加えて、近年、我々企業は、予測困難な変化に度々さらされています。

- ・新型コロナウイルス、戦争等の影響によるサプライチェーンの崩壊
- ・大國間の対立による輸出規制

さて、第109回品質管理シンポジウムでは、これからの品質経営の在り方を「顧客価値創造とそれを実現するための組織能力の向上・獲得」と定義しました。これは「令和大磯宣言」としても提言されました。第109回以降も、顧客価値創造、組織能力の向上・獲得に関する議論を継続的に行ってまいりました。そして、ご存じのとおり、品質とはモノの出来栄のことではなく、顧客及び社会のニーズを満たす度合いです。では、この変化の時代、顧客及び社会が求めるものは何でしょうか? 予測可能な変化と予測困難な変化への対応とを、分けて考える必要があるのではないのでしょうか。

ここで、生産現場に目を向けると、日本はこれまで、現場の社員各々が主体的に問題・課題を解決・達成する力、すなわち「現場力」で発展を続けてきました。しかし、労働人口の減少、働き方改革など、生産現場を取り巻く環境は大きく変化しています。これまで絶え間ない改善活動を行ってきた人材は、近い将来、定年を迎えることから、熟練者の高技能により古い設備をメンテナンスしながら使い続けることはサステナブルでないことは明らかでしょう。確実に、生産現場の中心を担うのはデジタルネイティブのZ世代に変わるのです。

また、企業活動における脱炭素や省資源が社会から強く求められています。CO2や中間在庫を低減するために極力短い工程で完結する、あらゆる変化に対応するために柔軟性の高い設備や生産システムにする、人不足への対応のために夜は無人で稼働する工場にするなど、リーンでクリーンな生産現場への再構築は待ったなしの状態と思われます。

そして、もう一つ考えるべきは予測困難な変化への対応です。過去の日本経営の良さは、確実に先が読めて、それに向けて絶え間ない改善を続けてこられたことです。近年、この前提は崩れ、変化が読めない、想定外という事態が多発しています。どんな事態が起ころうともそれに対処できる企業能力が生き残りのカギになってきます。

そこで、今回のシンポジウムでは、我々企業が、変化する環境の中で顧客に価値を提供し続けていくためには、どのようなマネジメントが必要になるかに焦点を当てて議論を行います。これまでも、変化に対応するための経営については多くの議論がなされてきましたが、いざアクションを起こそうとすると、それが予測可能な変化であったとしても様々な難しさを感じる場面が多かったのではないのでしょうか。今回は真剣に変化と向き合い具体的なアクションを起こすにはどうすればいいかについて、8つの経営機能に分かれて、より踏み込んだ議論を行います。

プログラム

開催期日：2024年12月5日(木)～12月7日(土)

会場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。

※組織名・役職は2024年9月現在の表記になっております。

月日	時間	科目(講演テーマは仮)	講演者(敬称略)
12/5 (木)	19:00～20:30	〈特別講演〉 南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震の予測と防災 —「大地変動の時代」を生き残る企業戦略 質疑・応答	鎌田 浩毅 京大名誉教授
	20:30～22:00	GD(1)、談話室	
12/6 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～9:25	〈基調講演〉 変化に対応する品質経営～Machining Transformation～	森 雅彦 DMG森精機(株) 代表取締役社長
	9:25～9:40	質疑・応答	
	9:40～9:45	入替(5分)	
	9:45～10:35	〈講演1〉 サステナブルな顧客価値創造を目指して～すべては想いとどくために～	小谷 高代 (株)ユーシン精機 代表取締役社長
	10:35～10:50	質疑・応答	
	10:50～11:00	休憩(10分)	
	11:00～11:50	〈講演2〉 研究品質 ～変化する社会課題へのデンソーの挑戦～	伊藤 みほ (株)デンソー 執行幹部 先端技術研究所長
	11:50～12:05	質疑・応答	
	12:05～13:00	昼食休憩(55分)	
	13:00～13:50	〈講演3〉 アートと社会 ～現代アート普及の意義～ 歴史的文化的芸術都市、京都から(仮題)	カルドネル 島井 佐枝 アートプロデューサー MUZ(株) 代表取締役
	13:50～14:05	質疑・応答	
	14:05～14:10	入替(5分)	
	14:10～15:00	〈講演4〉 品質管理を支えるダイバーシティ経営	渡邊 弘子 富士電子工業(株) 代表取締役社長
15:00～15:15	質疑・応答		
15:15～15:35	GD会場へ移動・休憩(20分)		
15:35～19:00	GD(2)		
19:00～19:15	休憩(15分)		
19:15～20:15	夕食		
20:15～21:30	談話室		
12/7 (土)	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	
	10:00～10:15	休憩	司会：森 雅彦 報告：各班リーダー
	10:15～11:35	総合討論	
	11:35～11:50	第118回 品質管理シンポジウム まとめ	森 雅彦
	11:50～12:00	次回(第119回)品質管理シンポジウム案内	119QCS主担当組織委員 山田 秀
	12:00～	昼食・解散	

※GDはグループ討論の略です。

講演概要

12/5 (木) 特別講演

南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震の
予測と防災—「大地変動の時代」を生き残る企業戦略

鎌田 浩毅 氏

京都大学名誉教授



近い将来「南海トラフ巨大地震」「富士山噴火」「首都直下地震」が必ず発生します。南海トラフ巨大地震では総人口の半数6800万人が被災し、2011年に起きた東日本大震災の10倍の経済被害をもたらします。発生時期は2035年±5年と予想され、休んでいた東海地震が連動し、「噴火スタンバイ状態」の富士山の爆発を誘発します。また首都直下地震の震源は19箇所あり、東日本大震災の5倍の経済被害になります。昨今、地球温暖化で気象災害が激化していますが、脱炭素とカーボンニュートラルの政策は、カルデラ大噴火がもたらす地球寒冷化でひっくり返る可能性があります。「京大人気 No.1 教授」を24年間続けた「科学の伝道師」が、最先端の地球科学が示す予測と防災対策を開示し、生き残るために企業は何を準備すべきかを具体的に提案します。予備知識としてYouTube「京都大学最終講義」（現在100万回再生中）もご覧下さい。

12/6 (金) 講演 2

研究品質

～変化する社会課題へのデンソーの挑戦～

伊藤 みほ 氏

(株)デンソー 執行幹部 先端技術研究所長



デンソーは、自動車業界で培ってきた様々なコア技術を活かし、「自動車業界のTier1」から「モビリティ社会のTier1」へと価値提供範囲を広げ、持続可能なモビリティ社会の発展に貢献することを目指しています。

本講演では、2035年の社会課題解決に向けた当社の技術開発の取り組みについて紹介いたします。カーボンニュートラル、資源循環、安心な移動、幸福循環などの実現に向けた課題は複雑化してきており、これらの課題解決には、最適なイノベーションエコシステムの構築や産学官連携の重要性が増えています。

また、生成AIが急速に進化・普及する今日において、研究品質向上に向けた試行錯誤型からデータ駆動型への研究スタイル変革についてもお話しさせていただきます。

12/6 (金) 基調講演

変化に対応する品質経営

～Machining Transformation～

森 雅彦 氏

DMG 森精機(株) 代表取締役社長



近年、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。当社が工作機械を納入している製造現場においても、少品種大量生産から多品種少量生産への移行、少子高齢化による労働人口の減少、脱炭素・省資源への要求の高まりなど、多くの変化が見られます。

当社では、お客様が生産活動においてこれらの変化に対応し、サステナブルな社会を実現するために、MX (Machining Transformation) を提唱し、全世界のお客様に訴求しています。MXとは、「従来分割されていた長い工程を1台の工作機械に集約し、それに自動化システムを搭載することで、変化に強い、稼働率の高い製造現場を作ること。そして、この一連の流れをDX (Digital Transformation) によって加速すること」を意味します。

今回は、MXの事例を交えて、当社が変化する環境の中で顧客に価値を提供し続けていくための取組について紹介いたします。

12/6 (金) 講演 3

アートと社会

～現代アート普及の意義～

歴史的な文化芸術都市、京都から (仮題)

カルドネル 島井 佐枝 氏

アートプロデューサー MUZ (株) 代表取締役



過去から現在にかけて芸術の役割は変化しています。現代社会におけるアートの役割とは何でしょうか。人類が新しい時代の様々な課題に立ち向かうために現代アートは存在します。

アーティストが鋭い感性で表現する自然や社会の中で感じ取った気づきを、アートメディエーターが発信し、それを鑑賞者が受け取り、共感し、周囲の人々と対話すること全体が芸術活動であり、人々を理性のある思考へと導きます。

今回は、京都での取り組みを中心に弊社のいくつかの文化事業を紹介しながら、現代アートと工芸、装飾について、仮説と探求の源となる好奇心と疑問、想像力と創造性、主体性と向上心、これらを身につけるためのこれからあるべき美術教育、未来に向けてよりよい社会を築くための一般市民のアートリテラシー修得推進についてお話しします。

12/6 (金) 講演 1

サステナブルな顧客価値創造を
目指して

～すべては想いとどくために～

小谷 高代 氏

(株)ユーシン精機 代表取締役社長



当社はプラスチック射出成形工場向け産業用直交型「取出口ポット」を主力製品としたFAメーカーです。取出口ポットが把持、搬送するプラスチック部品は幅広い業種で様々な製品に使用されることから、取出口ポットに対する顧客要望は多様です。当社は、取出口ポットを顧客ニーズに合わせて一品一様にカスタマイズし、高品質かつ短納期で納品、長期に渡り安心できるメンテナンスサービスを提供するための仕組み化を行っています。変化する時代の中で、顧客の工場環境や要望を正しく認識して製品づくりを行うとともに、労働人口の減少や環境等の社会課題の解決に貢献することを目指します。顧客価値を創造し、社名の由来であるお客様からの信頼(ユーシン:有信)を獲得し続けるための取り組みをご紹介します。

12/6 (金) 講演 4

品質管理を支える
ダイバーシティ経営

渡邊 弘子 氏

富士電子工業(株) 代表取締役社長



変化していく環境において、品質管理を支えるためには生産システムの見直しや効率化など制度・体制面での対応が必要ですが、その対応を支えるのはやはり「人」です。これからの現場を担ういわゆるZ世代が生き生きと働けるためには何が必要かを考え、世代間での考え方のギャップを私たちが認識しない限り、これからの変化に対応し続けることができる企業体質は構築できないでしょう。

今回の講演では、当社のダイバーシティ経営の歩みとその成果、国際的に見た女性活躍の実態などから、これからの企業を支える「人」に焦点を当てたお話をさせていただこうと思います。

いかなる変化にも対応できる経営のあり方

飯塚 悦功(東京大学 名誉教授), 島田 さつき(ユーロフィンQFL(株) 執行役員)

第1班

趣旨 いつの世も顧客・社会のニーズは変化し、技術も進化していきます。加えて、近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、企業を取り巻く環境が世界的に大きく変化しています。このような変化に伴い、顧客価値を創造・提供し続けていくために考えるべき要素が高度化・複雑化・多様化しています。

一方で、日本の産業界は過去の成功体験が忘れられないためか、様々な変化に対する確・迅速に対応できているとは言えません。今後、日本企業が持続的に成功していくためには、「Just in case」の考え方も必要になっています。

そこで第1班では、経営層がいかなる変化にも適時適切に対応できるようになるために、どのような経営スタイルを重視すべきか議論します。

論点

- ①環境変化を的確に把握し、将来のあるべき姿を描ける仕組みとは何か。
- ②あるべき姿の実現のため、有すべき組織能力を認識しその具備に必要な検討事項は何か。
- ③顧客価値創出に向け「新たな枠組みを生み出し革新する」ために経営視点で必要なことは何か。
- ④これらを促進し、組織風土を変えていくために経営トップには何が求められるか。

変化に対応するための研究開発のあり方

丸山 一彦(和光大学 経済経営学部 教授), 江間 富世(パナソニック オペレーションズエグゼクティブ(株)品質・環境本部 安全・品質部 品質企画課 品質企画総括)

第2班

趣旨 近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。このような大きな変化の中で、企業は競争力を高めるために、社会課題の解決やお客様への新たな価値提供に向けて、予想される課題に対応する様々な最新の研究開発に取り組むことが一つのトレンドになっています。しかし、如何に最先端の研究開発を行っていたとしても、その成果が最終的に商品・サービスとなって顧客に受け入れられ、世の中に役立つなければ意味がありません。

そこで第2班では、研究開発自体を議論するのではなく、商品・サービスの創造・提供プロセスの中でも、特に研究開発プロセスにおいて、この大きな変化の中で、社会に大きなイノベーションを起こす商品・サービスを確実に創造するために、右記の論点について議論します。

論点

- ①環境変化の識見、積極的な顧客思考、全員参加に基づく戦略(構成・仕組み・枠組み・計画)が適切に構築されているか。
- ②顧客思考に基づく顧客・社会の課題を適切に情報収集できているか。
- ③得られた情報から、狙いの品質を確実にする活動が適切に行われているか。

変化に対応するための生産体制のあり方

古谷 健夫(株クオリティクリエーション 代表取締役), 森口 一豊(DMG森精機(株) 常務執行役員 生産技術加工担当 DMG森精機製造(株) 取締役社長 DMG森精機プレジジョンコンポーネンツ(株) 取締役社長)

第3班

趣旨 予測可能、予測困難にかかわらず企業を取り巻く経営環境は大きく変化し続けます。これまでの日本の製造業は、現場の社員各々が主体的に問題・課題を解決する「現場力」で発展を続けてきました。このような変化の中で企業が生き残っていくには、「現場力」だけでは限界があり、変化に柔軟に対応する工場の革新が必要です。具体的には、労働人口の減少、高度技能者のカン・コツに頼り切りの古い設備によるサステナブルではない生産方法、高稼働時のみ生産性が高い工程設計、社員の努力に委ねられた省エネルギー等があります。これら旧態依然としたものづくりのままでは、今後生産現場の中心を担っていくデジタルネイティブのZ世代には馴染みません。今、日本の工場がどう変わるべきなのかを議論します。

論点

- ①顧客、社会からの要求の現状把握と今後、生産体制にどのような変化が求められているか。
- ②生産体制の変化への具体的な対応は何か。
- ③具体的な対応を行う際の難しさとそれを克服するための工場のマネジメントは何をすべきか。

変化に対応するための人材育成のあり方

梶原 千里(静岡大学 情報学部 行動情報学科 准教授), 山下 千津子(コマツ コマツウェイ総合研修センタ 所長)

第4班

趣旨 近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。このような変化の中、世代交代が進み、Z世代(1990年代半ば~2010年初頭生まれ)が今後の日本社会の中心的な役割を演ずる時代になってきます。環境変化に伴い、企業が顧客に価値を提供し続けていくために考えるべき要素が複雑化・多様化し、若者の生活や仕事に対する価値観も変わる中、企業の人材育成は、終身雇用時代の旧態依然とした仕組みや内容に終始しているのではないのでしょうか。第4班では、入社した社員が、会社の中で成長と自己実現を実感できるような人材育成はどうあるべきかについて議論します。

論点

- ①生活や仕事に対するZ世代社員の価値観には、どのような特徴があるか。
- ②次世代を担うZ世代社員には、どのような人材に育ってほしいか。
- ③①の特徴がある中で、②の人材を育成するにあたり、現在の課題は何か。
- ④Z世代社員が会社の中で成長と自己実現を実感できるような人材育成とはどうあるべきか。

変化に対応するためのサプライチェーンのあり方

新宅 純二郎(明治大学 経営学部 特任教授), 岡田 浩二(日本電気(株) 品質統括部 シニアディレクター)

第5班

趣旨 2000年代以降、川上の素材から最終消費までのすべてのサプライチェーンが一国で完結する例は少なく、サプライチェーンのグローバル化が進んできました。ところが、2010年代以降、疫病、自然災害、国際的紛争による影響で、サプライチェーンが崩壊し、致命的な打撃を受けた企業も少なくありません。また、脱炭素や資源循環、人権問題に対する国際的な新しい動きは、自社だけでなく、サプライチェーン全体の把握や見直しが必要になっています。そこで第5班では、我々企業がレジリエンスの高いサプライチェーン構造をどのようにして作っていくべきかについて議論します。

論点

- ①ポリティカルリスク政治的な紛争に備えて、事前の対策と事後の対策について、米中間題や台湾有事についても議論する。
- ②災害リスクレジリエントなサプライチェーンの構築について議論する。代替生産体制、調達との二重化(分散と集中)、在庫の持ち方、二次・三次にわたるサプライチェーンの見える化など。
- ③SDGsに対応したサプライチェーン脱炭素や人権問題は、自社の生産のみならず、上流のサプライヤーのあり方まで把握していく必要がある。今度、どのような対応をとるべきかについて議論する。

変化に対応するための品質管理(自動化、DX)のあり方

佐野 雅隆(拓殖大学 商学部 経営学科 教授), 花崎 雅彦(元住友理工(株))

第6班

趣旨 近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。環境変化に伴い商品やサービスが多様化する中で、品質保証の重要性は高まる一方ですが、それが難しくなっています。人に過度に依存するような品質保証は既に破綻しており、それが近年一部の企業に見られる品質不正にも繋がっていると考えられます。そこで第6班では、多様化する商品・サービスの品質を保証するために、如何にして正しいプロセスでしか業務を行うことができないようにするか、万が一正しくないことが発生した際に、それに気づき止めることのできるシステムを構築するか、について議論します。

論点

- ①人間依存から脱却するにはどうすべきか。
- ②正しいプロセスでしか業務を行うことができないようにするために必要なことは何か。
- ③正しくないことが発生した時、それに気づくことが可能なシステムをどのように構築すればよいか。

変化に対応するためのアフターサービスのあり方

金子 雅明(東海大学 情報通信学部 教授), 國遠 正章(元豊田自動織機)

第7班

趣旨 変化に対応するためには、商品やサービスを提供して終わりではなく、それらが提供後にお客様の現場でどのように使われているかを把握し、ライフサイクルを通しての価値を最大化するアフターサービス活動が必要です。従来から、このような活動の重要性・必要性が認識されていますが、実態としてはそこまで十分な取り組みが行われてきたとは言えないように思います。そこで第7班では、顧客及び社会への価値提供を最大化するための「アフターサービス」を実現するにあたって、何が壁となっていて、それをどのように克服していけばよいかについて、議論します。

論点

- ①顧客・社会への価値最大化のために、経営・事業戦略の中でアフターサービスをどのように位置づけ、活動として何に取り組んでいるか。
- ②アフターサービスの強化・充実を図る上で、各組織が直面している課題、困りごととなっているか。
- ③価値最大化のために、今後アフターサービスをどのようにすべきか。

変化に対応するためのビジネスの上流プロセスの変革

森田 浩(大阪大学 情報科学研究科 教授), 尾本 勝彦(元パナソニック(株) 品質・環境本部 本部長)

第8班

趣旨 企業を取り巻く環境は大きく変化してきており、このような変化に対応して企業が生き残っていくためには、これまで以上に顧客や社会の抱える課題や問題に目を向けて一歩先のニーズを捉えることが重要です。マーケティングや開発企画といったビジネスにおける上流プロセスにおいては、このような変化を捉えてどう市場を開拓していくかということが必要となるとともに、その変革を起こすための自社の組織風土も更なる強化が必要となってきます。第8班ではBtoCに限らずBtoBにおいても、一歩先を見て活動するためにどのような仕組みが求められるかについて議論したいと思います。

論点

- ①既存顧客の潜在的ニーズの変化、新たな顧客のニーズをどのように捉えるべきか。
- ②捉えた顧客ニーズの実現に向けて、自社の力をどのように変革させるべきか。
- ③変革を推進するための組織としてのイノベーション文化をどう醸成していくべきか。

ご確認ください！

品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

品質の定義	顧客及び社会のニーズを満たす度合い	「品質」は、モノの 出来栄のことではない
品質保証の定義	顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動	
サービス・ドミナント・ロジックの考え方	「価値は、顧客がモノをつかひこなすことによって生まれる。顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない」という、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。	
「コト価値」の考え方	顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。	

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

- メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額221,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額128,700円(税込み)

入会いただきますと

- 企業会員:無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。
- 団体会員:無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。
- 無料参加枠以外の方は特別価格(57,200円・税込み)でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2024年9月現在、50音順 132社

- | | | | |
|----------------------|--------------------|----------------------|------------------------|
| 1 アート金属工業(株) | 36 コニカミノルタ(株) | 68(株)竹中工務店 | 101(株)羽生田製作所 |
| 2(株)アーレスティ | 37 小林製薬(株) | 69 中国化薬(株) | 102 日立 Astemo(株) |
| 3(株)IHI | 38(株)小松製作所 | 70(株)千代田グラビヤ | 103(株)日立製作所 |
| 4(株)アイシン | 39(株)コロナ | 71 DMG森精機(株) | 104 日野自動車(株) |
| 5 アイシン機工(株) | 40 澤藤電機(株) | 72(株)テクノプロ | 105 ヒロセ電機(株) |
| 6 アイシン軽金属(株) | 41 サンデン(株) | テクノプロ・デザイン社 | 106 富士フィルムビジネス |
| 7 アイシンシロキ(株) | 42(株)シーヴェイテック | 73(株)デンソー | イノベーション(株) |
| 8 愛知製鋼(株) | 43(株)GSユアサ | 74(株)東海理化 | 107 富士フィルム |
| 9 アイホン(株) | 44(株)ジーシー | 75(株)東陽テクニカ | マニファクチャリング(株) |
| 10(株)青山製作所 | 45(株)ジーシーデンタルプロダクツ | 76 東レ(株) | 108 富士電機(株) |
| 11 旭化成(株) | 46 JFEスチール(株) | 77 TOTO(株) | 109 フジミ工研(株) |
| 12(株)EARTHBRAIN | 47(株)ジェイテクト | 78(一社)富山県経営者協会 | 110 フタバ産業(株) |
| 13(株)麻生 | 48(株)ジェイテクト | 79 トヨタ自動車(株) | 111(株)ブリヂストン |
| 14(株)アドヴィックス | グラインディングツール | 80 トヨタ自動車九州(株) | 112 ベンてる(株) |
| 15(株)イシダ | 49(株)ジェイテクトサーモシステム | 81 トヨタ自動車北海道(株) | 113(株)保志 |
| 16 AGC(株) | 50 芝浦機械(株) | 82(株)豊田自動織機 | 114 本田技研工業(株) |
| 17 NECプラットフォームズ(株) | 51 清水建設(株) | 83 トヨタ車体(株) | 115 前田建設工業(株) |
| 18(株)荏原製作所 | 52 JUKI(株) | 84 トヨタ紡織(株) | 116(株)前田製作所 |
| 19(株)FTS | 53(株)新川 | 85 トヨタ紡織滋賀(株) | 117 マツダ(株) |
| 20 エムエスシーソフトウェア(株) | 54 Sky(株) | 86 トヨタホーム(株) | 118(株)マルヤスエンジニアリング |
| 21(株)MCシステムズ | 55(株)SUBARU | 87 長津工業(株) | 119 三島食品(株) |
| 22 エリーパワー(株) | 56 住友理工(株) | 88(株)ニコン | 120 三菱電機(株) |
| 23 大塚化学(株) | 57 関工業(株) | 89 西田精機(株) | 121(株)村田製作所 |
| 24 オークマ(株) | 58 積水化学工業(株) | 90 日華化学(株) | 122(株)メイドー |
| 25(株)オティックス | 59(株)セキソー | 91(株)日科技連出版社 | 123 名北工業(株) |
| 26 オムロン(株) | 60 ソニーセミコンダクタ | 92 日産自動車(株) | 124 安川オートメーション・ドライブ(株) |
| 27 花王(株) | ソリューションズ(株) | 93 日産車体(株) | 125 安川コントロール(株) |
| 28 鹿島建設(株) | 61 ダイキン工業(株) | 94 日本精工(株) | 126(株)安川電機 |
| 29(有)企画システムコンサルティング | 62 ダイハツ工業(株) | 95 日本電気(株) | 127 UBE(株) |
| 30(株)キャタラー | 63 ダイハツディーゼル(株) | 96(株)日本科学技術研修所 | 128 ユーロフィン FQL(株) |
| 31 The Qt Company Oy | 64 大豊精機(株) | 97 日本商工会議所 | 129(株)ユニバンス |
| 32 京西テクノス(株) | 65 ダイヤモンドエレクトリック | 98 日本特殊陶業(株) | 130 楽天グループ(株) |
| 33(株)神戸製鋼所 | ホールディングス(株) | 99 パナソニックホールディングス(株) | 131(株)リコー |
| 34 コーセル(株) | 66 ダイヤモンド電子(株) | 100 パナソニックオペレーショナル | エクセレンス(株) |
| 35 小島プレス工業(株) | 67 大和リース(株) | | |

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

開催日時	2024年12月5日(木) 19:00~12月7日(土) 12:00 (12月5日受付開始16:00~、夕食17:30~)
会場	大磯プリンスホテル 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546 TEL:0463-61-1111 FAX:0463-61-6281
参加対象	企業の役員、上級管理職の方々他 ※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い関連のある部門とその役割を担うの方々のご参加について、ご検討をお願いします。
参加方法	集合参加 現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能
	ライブ視聴参加 PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。 ※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)はWebサイトをご参照ください。
参加費(税込)	QCS 企業会員・団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。 ※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ(1名分)」となります。 無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、57,200円/1人の参加費を申し受けます。
	一般参加 ライブ視聴参加のみ 132,000円/1人
	団体参加(ライブ視聴参加) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 ◆50名まで……………550,000円 ◆51名~100名まで…880,000円 ◆101名~200名…1,100,000円 ※201名以上の場合は、下記までお問い合わせください。 ご請求に関して 参加費のご請求書は、日本科学技術連盟より、お申込みのご連絡担当者様宛にメールで電子発行いたします。

その他

付帯費用(集合参加の場合)

- ・別途、宿泊費がかかります。
- ・宿泊費のご請求書は、株式会社ジャパトラより、お申込みのご連絡担当者様宛にメールで電子発行いたします。
- ・食事代(12月5日夕、12月6日朝・昼・夕、12月7日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。
- ・交通費はご自弁ください。
- ※大磯プリンスホテルは電子タバコも含め全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代が請求されます。

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)

第117回



木目田 裕氏

西村あさひ法律事務所・
外国法共同事業
弁護士

第116回



桜井 博志氏

旭酒造(株)
会長

第115回



増本 陽秀氏

(株)麻生 飯塚病院
院長

第114回



藤井 保文氏

(株)ピービット
執行役員CCO
東アジア営業責任者

第113回



長谷部 佳宏氏

花王(株)
代表取締役
社長執行役員

第112回



津賀 一宏氏

パナソニック(株)
取締役会長

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2024年3月現在の表記になっております)



小笠原 浩

(株)安川電機
代表取締役会長



永田 靖

早稲田大学
教授



宮本 眞志

トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト
推進本部長



棟近 雅彦

早稲田大学
教授



森 雅彦

DMG森精機(株)
代表取締役社長



山田 秀

慶應義塾大学
教授

申込方法

シンポジウム

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから

<https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 10月21日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。

- ・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引続き二次申込を実施します。
- ・ライブ視聴参加の申込締切は、11月14日(木)とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する 問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム 担当:安随・密・橋本・鈴木(佑)
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL:03-5990-5846 E-mail:qcs@juse.or.jp

宿泊に関する 問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当:柏木・鶴川・西森
〒161-0033東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL:03-6915-3646 E-mail:qcdesk@japatra.co.jp